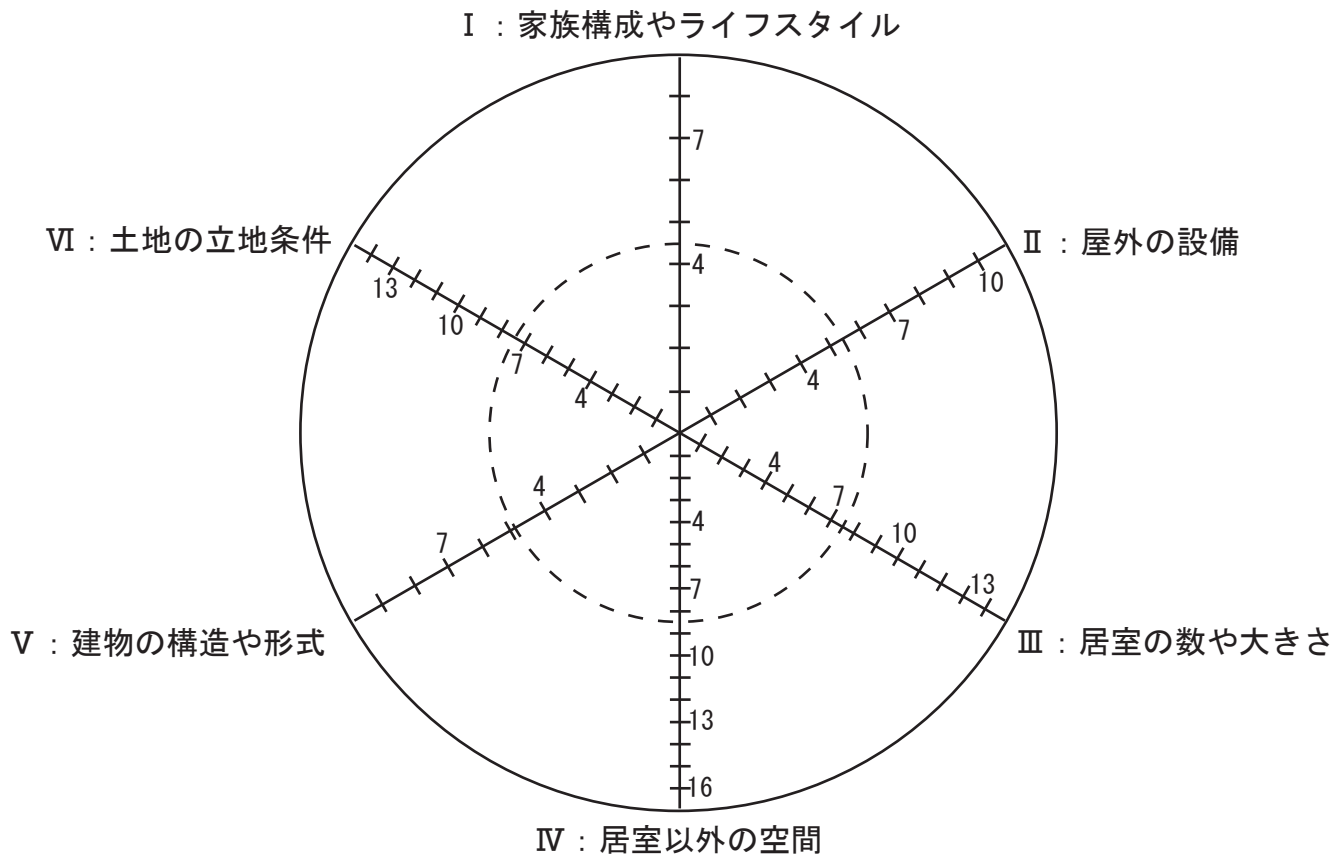


第2回「土地の広さはどれだけ必要」



【チェックポイント】

I : 家族構成やライフスタイルと土地の広さ

ライフスタイルには、普遍的なものや、譲れないことが多く、無理に我慢すると家庭生活の崩壊につながります。ただし、家族構成などは時間の経過と共に変化するもの。将来を予測し、柔軟に対応できる間取りにしておきましょう。

II : 屋外の設備と土地の広さ

広い庭も活用しなくては、ムダ。手入れを怠れば資産価値を下げることにもなります。めったに乗らないような車は不要かもしれません。屋外で犬を飼うなら、首輪を付けずに遊べる庭が理想ですね。

III : 居室の数や大きさと土地の広さ

居室は長時間過ごす空間ですから、圧迫感を感じることのない広さを確保しましょう。寝室の場合、今は畳の上で寝起きしていても、将来ベッドを置くとすると結構スペースをとり狭く感じるものです。

IV : 居室以外の空間と土地の広さ

短時間しか滞在しなくても、こだわりのある方には重要な問題。でも、家族の総意ということを考えて十分に話し合っ

V : 建物の構造や形式と土地の広さ

建物の構造や階数を工夫することで、建築面積(1階部分の床面積)を抑えれば、庭をより広くとれます。しかし、その分建築費が増したり、地域・地区によっては高さの制限により建てられないこともあるので注意。

VI : 土地の立地条件と土地の広さ

環境面をはじめ、よりよい立地条件の土地に住みたいものですが、そのような土地ほど地価が高く、法的規制が厳しいものです。そのため、設計には工夫やアイデアが必要となり、建築費が増すことも覚悟しましょう。

【傾向と対策】

※ I ~ VI どの項目でも、点数が多いほど広い土地を必要とする可能性を示唆しています。

夢がふくらむマイホームづくりでは、あれもこれもと考えていくうちに、想定する家が大きくなりがち。当然のことながら、広い土地が必要になります。もちろん資金が十分にあれば問題はありませんが、ムダな投資は考えものです。

まず、削れるものは削っておいて、資金にゆとりがあるようならば、また思いの外安ければ、より広い土地を選ぶ。そんな心構えで臨むことが大切ではないでしょうか。